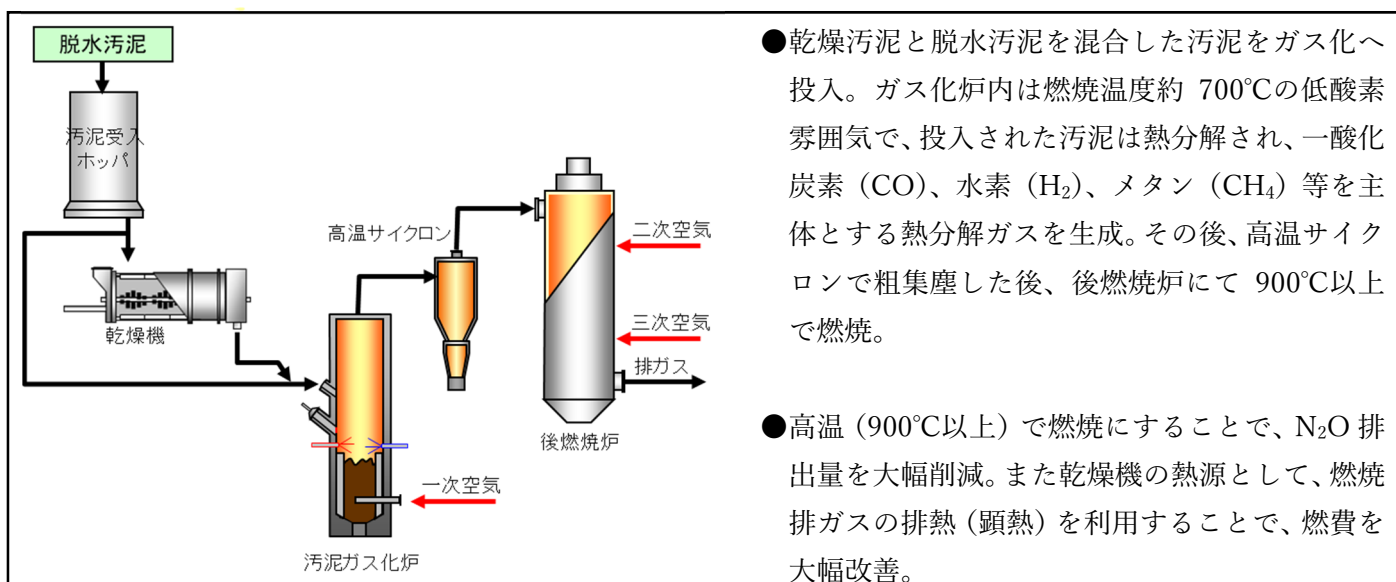


FJISS 温室効果ガス削減技術概要情報

企業名	GHG 削減技術カテゴリ	対象施設等	FJISS 登録年月
メタウォーター株式会社	排出削減技術	処理場	2022年6月

項目	内容
商品（製品）名	汚泥ガス化炉
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・ガス化炉（流動炉）の部分燃焼雰囲気中で脱水汚泥をガス化し、高温サイクロンで粗集塵した後、後燃焼炉において900℃以上で燃焼し、N₂Oを大幅に削減する技術 ・後燃焼炉において900℃以上で燃焼する前に粗集塵することで、クリンカ等による機器や煙道の閉塞リスクを低減 ・ガス化炉前段に乾燥機を付帯することで自燃運転が可能（燃費改善）
仕様	設備構成例：汚泥貯留設備、乾燥機、 汚泥ガス化炉 、高温サイクロン、後燃焼炉、熱回収設備、排ガス処理設備等
推奨規模 設置個所等	<ul style="list-style-type: none"> ・焼却炉規模：5～300t/日 ・脱水汚泥含水率：約68～85%未満（自燃運転対応可） ※「日本下水道事業団 機械設備 標準仕様書 第12章汚泥脱水設備」で示される各種脱水機の性能値表における汚泥性状範囲は全て処理可能
省エネ、CO ₂ 削減性能等	燃費削減効果：約100%（自燃運転） ※従来気泡流動炉比 N ₂ O由来のCO ₂ 排出削減率：約90% ※従来気泡流動炉比
導入実績	導入実績2件（東京都）
技術認証登録等	東京都下水道局 第二世代型焼却炉
詳細情報 URL	—
問い合わせ先	メタウォーター株式会社 営業本部（石坂） TEL:03-6853-7340 (代表)



- 乾燥汚泥と脱水汚泥を混合した汚泥をガス化へ投入。ガス化炉内は燃焼温度約700℃の低酸素雰囲気中で、投入された汚泥は熱分解され、一酸化炭素（CO）、水素（H₂）、メタン（CH₄）等を主体とする熱分解ガスを生成。その後、高温サイクロンで粗集塵した後、後燃焼炉にて900℃以上で燃焼。
- 高温（900℃以上）で燃焼にすることで、N₂O排出量を大幅削減。また乾燥機の熱源として、燃焼排ガスの排熱（顕熱）を利用することで、燃費を大幅改善。

注）本技術の内容は、企業からの情報をそのまま掲載しており、FJISS が保証するものではありません。